



ぐんまのたからもの

Part 1 - ①

6月7日～

8月8日

「ぐんまのたからもの」とは・・・

来館者の皆さんは「ぐんまのたからものって何がある？」と聞かれたら、何を思い浮かべますか。豊かな自然景観をはじめ様々な答えがあがると思います。現在、群馬県では、富岡製糸場をはじめとした絹産業遺産群の世界遺産登録を目指しています。また、昨年には甲を着た古墳人が発掘されるなど、文化財に対する関心やその保護・保存の機運が高まっています。

今回のコーナー展示では、群馬県民が守り、大切に保存してきた「たからもの」のひとつである文化財に焦点をあて、群馬県が成立した明治期から県庁書庫に保管されてきた公文書を中心にその軌跡をひもといていきます。この展示をとおして、大切な財産を未来へ遺す意義を感じて頂けたらと思います。

「記録のなかの東国文化」

【コーナー1】 「古書古器物書類」より

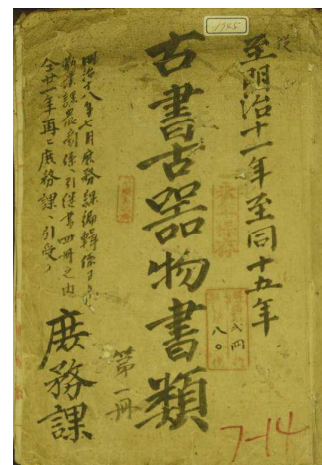
「古書古器物書類」(こしょこきぶつしよるい)

この簿冊には、明治6年(1873)から19年の間に、県内各地で発見、報告された遺跡や遺物に関する書類が綴られています。なかでも特に多いのが古器物、現在の埋蔵文化財出土品の報告書です。このコーナーでは、そのなかから、図面に描かれた部分を中心に紹介し、あわせて、関係する文書を、「御指令本書」(ごしれいほんしょ)から抜粋しました。

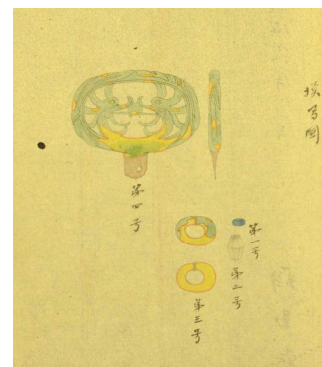
なお、この簿冊には、表題のほかに追記があり、県庁内の組織の変遷にともない、文書が引き継がれていく様子をうかがうことができます。はじめに古書古器物調査に関する事務を担当した庶務課編輯係(へんしゅうかかり)は、関係書類を4冊に分冊しましたが、次に事務を引き継いだ勸業課農商係は、この内の一冊を「古碑保存書」とし、ほかの3冊は検索の便を考えて一冊に合冊し、目録を付しました。その後、担当は再び庶務課へ戻り、庶務課では表紙を替え、保存期間を永年保存として保管することにしました。現在ではこの簿冊は本来の役割を終え、歴史資料として、昔の姿を今に伝えています。

大室古墳群

明治4年(1871)2月、明治政府は太政官布告を発し、全国の陵墓調査を実施しました。群馬県では、同7年に前橋植野の二子山古墳を申請し、



「古書古器物書類」表紙



鍍金装飾の刀の図

認定されましたが、後に取り消しとなり、それに代わるものとして注目されたのが大室古墳群の一つである前二子古墳でした。「古書古器物書類」には、明治11年3月、地元の村民が狐貉の巣穴を掘ったところ、偶然に発見したとあります。届出を受けた県は実地調査を行い、翌4月に楢取素彦県令名で「管内古陵墓之儀二付上申」を宮内卿宛に提出し、前二子を豊城入彦命（とよきいりひこのみこと）、後二子を御諸別王（みもろわけおう）墓として認可するための検査を依頼しました。しかし、11月に行われた宮内省の調査の結果、決定となるべき根拠を欠くという理由で、認定は叶いませんでした。（参考：前原豊著『東国大豪族の威勢 大室古墳群』）



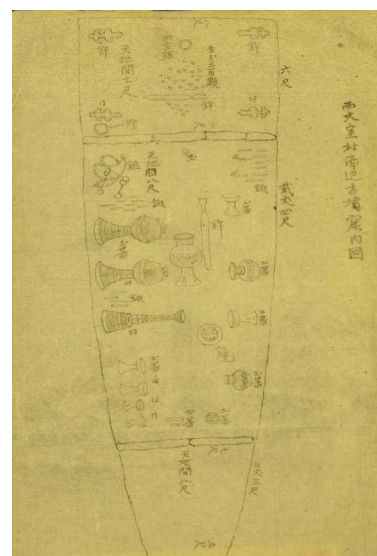
大室古墳群の図

古器物の展覧会

地元の大室村では発掘された古器物の展覧会が11年4月から開催され、翌年の6月までに5000人を超える見学者が全国から訪れ（「古墳神器拜礼人名誌」）、茶店なども設置され、9月の北陸東海両道御巡幸の際には天覧に供されました。当時、戸長を務めた根岸家の文書から、この時の様子をうかがうことができます。

アーネスト・サトウの視察

明治13年（1880）3月、英国の外交官であるアーネスト・サトウが大室を訪れました。彼は古墳の景観や遺物の出土状況をスケッチし、さらに、石室内の赤色顔料やガラス玉のサンプルを持ち帰り、化学分析も行い、結果を「上野地方の古墳群」として発表しています。（参考：前原豊著『東国大豪族の威勢 大室古墳群』）



石室内の出土品の様子

< 展示資料 >

- ◆碓氷郡若田村古墳から出土した鉄胴（よろい）（明治15年）
 - ◆倉賀野駅字大應寺古墳より出土した馬具（明治17年）
 - ◆群馬郡下和田村人塚より出土した鍍金（金メッキ）装飾の刀（明治17年）
 - ◆那波郡下茂木村出土の碧玉・刀ほか模写図（明治18年）
 - ◆勢多郡西大室村三大墳（明治11年）
 - ◆勢多郡西大室村南辺古墳窟内図（明治11年）
- 以上、「古書古器物書類」より 群馬県行政文書（明治1945）
- ◆西大室村古墳出土の古器物展覧会に関する古文書（明治11年）
- 根岸孝一家文書（P8419）
- ◆英国人アーネスト・サトウより西大室村古墳の間数・周囲高低等調査依頼の件通知（明治17年3月15日）
- 根岸孝一家文書（P8419 773-1）

【コーナー2】お里帰りした公文書から

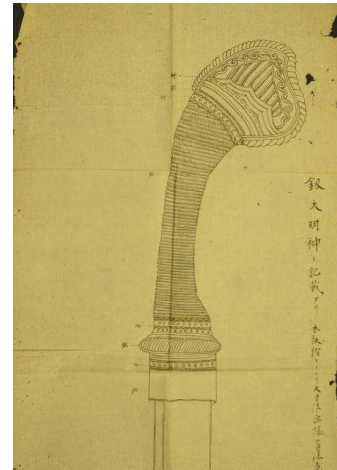


楯取素彦旧蔵の文書（一部）

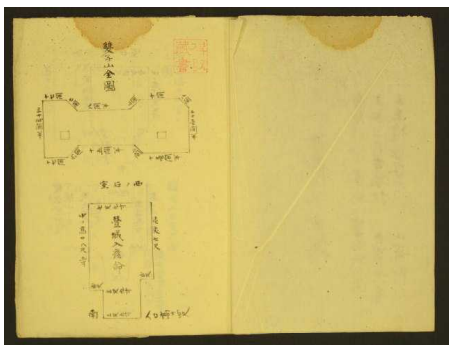
このコーナーに展示した文書は、昭和 47（1972）年、山口県防府市の防府天満宮（ほうふてんまんぐう）から群馬県に返還されたものです。群馬県の初代県令であった楯取素彦（かとりもとひこ 1829～1912）から寄進されていたものが、同天満宮の蔵書虫干しの際に発見され、返還の打診が有り、まず群馬県議会図書室で受け入れ、現在当館の所蔵となっています。

植野の二子山古墳（現前橋市総社町）は全長約 90 m、後円部径 44 m、高さ 7 m、前方部幅 60 m、高さ 8 m の総社古墳群最大の前方後円墳です。前方部、後円部それぞれに

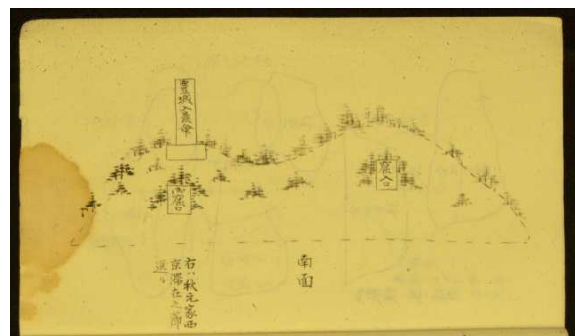
横穴式石室を持つ点でも特異です。昭和 2 年 4 月 8 日に国指定史跡になっています。古くから崇神天皇の第一皇子・豊城入彦命の墓といわれ、文政 2（1819）年、前橋藩により、前方部石室から頭椎太刀（かぶつちのたち）などが発掘されています。楯取県令期の明治 7（1874）年にも、陵墓確定を申請しましたが、成し遂げられませんでした。『豊城入彦命御陵墓御確定願書及事蹟取調書』は、明治 24（1891）年に作成されたものですが、当時、貴族院議員であった楯取が申請に何らかの形で関わり、控えが楯取の手元で大切に保管されてきたのではないかと思います。



出土と言われる剣の図



古墳平面図と石室平面図



墳丘の側面図

< 展示資料 >

- ◆ 「豊城入彦命御陵墓御確定願書及事蹟取調書」
- ◆ 「甲号 植野村御陵墓全図」
- ◆ 「乙号 植野村豊城入彦命御陵ヨリ出タル品図」
- ◆ 「丙号 上野国群馬郡植野村陵墓取調記」

以上、『防府天満宮からの寄贈図書一件書類（昭和 47 年）』より
群馬県行政文書（議 2823）

【コーナー3】文書館周辺の古墳の記録



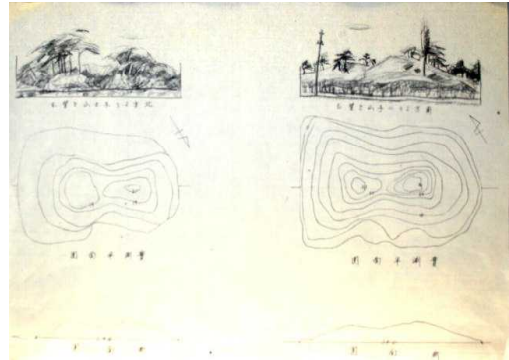
手前が二子山古墳

文書館周辺地域は、江戸時代には天川村と呼ばれていました。安政6年（1859）の「東通り天川村御絵図」（展示室の南面に展示）と村の境界を示した「天川村界（絵図）」には、二子山古墳、不二山古墳、唐櫃山（カロウトヤマ）古墳とその南に一基描かれ、この地域には計4基の古墳が存在していたことがわかります。古墳の周囲は大部分が畑でした。

二子山古墳は、大きな前方後円墳で、周囲をめぐる堀の一部が文書館の敷地内で確認されています。この古墳は、昭和2年（1927）6月14日に国の史跡に指定されました。この時の名称は「二子塚古墳」でした。

2ヶ月後の8月26日、国より出された「史蹟名勝天然記念物指定ニ関スル

通牒」は、指定後の地元民への周知と保護の努力を県に求めたものですが、同時に意見を問われたのに対し、古くより一般に二子山と称しているので「二子山古墳」に訂正してほしいと申し出ました。



古墳調査臺帳の実測図（不二山・二子山）

< 展示資料 >

◆ 「昭和10年（1935）に調査された前橋市の古墳分布図」

◆ 「二子山古墳と不二山古墳実測図」

以上、「古墳調査臺帳」（昭和10年）より

群馬県教育委員会文化財保護課提供
（この文書は当館では閲覧できません。）

◆ 「上野国群馬郡天川村界（絵図）」

天川史跡保存会文書（P8501 No.3）

◆ 「史蹟名勝天然記念物指定ニ関スル通牒（昭和2年）」

「史蹟名勝天然記念物」より

群馬県行政文書（昭和 864 4/4）

◆ 『上毛古墳綜覧』

（図書 K2653）

今後の展示予定

Part 1-②「文化財になった神社とお寺」

7月11日～8月8日

Part 2「教科書 今むかし」

8月10日～10月6日

群馬県立文書館(もんじょかん)

〒371-0801

群馬県前橋市文京町3丁目27-26

電話 027-221-2346 Fax 027-221-1628

ホームページ <http://www.archives.pref.gunma.jp>